2025年3月17日(月)

堂々と晴れやかに　～35期生、38期生を送る～

暖かな日差しに恵まれ、3月14日(土)には高校卒業35期生109名を、24日(日)には中学卒業38期生129名が、本校を晴れやかに巣立って行きました。

35 期生は、中学入学の年が新型コロナウイルス感染症拡大期パンデミックと重なり、多くの苦難と我慢を強いられた学年でした。しかし、彼らは明るく前向きにあらゆることに取り組み、新たな世界を切り開いてくれました。卒業式には、阿部 裕行多摩市長、多摩大学学長室長の趙 佑鎭教授、本校教育後援会会長の栗原 静枝様にご臨席を賜り、盛大に送り出すことができました。とりわけ、35 期生は多摩市の強力なご支援とご協力の下、全国でも珍しい強固な地域連携型の「探究学習」を行った生徒達であり、それが将来を目指した主体的で多面的な進路活動に結びついたと感じています。締め括りの祝詞として、未来切り拓く上で大切な人との出会いを祈念し、若松英輔さんの詩集より「祈願」を贈りました。

また、オフィシャな式の後は、本校の恒例となっているように生徒一人ひとりに校長より「卒業証書」を手渡し、その際には前日に私が学校で手作りしたお菓子セットを手に、在校生・保護者・教職員の拍手に見送られて一旦、会場を後にしました。その後、生徒たちは再び会場に戻り、保護者の皆様へ向けて感謝の気持ちを込めてサプライズで『道』(山崎朋子:作詞・作曲)を全員合唱で披露しました。多くの方々は感動でいっぱいで涙を浮かべておりました。

卒業式後には、府中市ホテルコンチネンタルに会場を移して、生徒達の手で 4 時間にもおよぶ「卒業を祝う会」を楽しくも涙ありの思いで深い会を執り行うことができました。これもひとえに、保護者並びにご家族の皆様のご指導・ご支援の賜物だと感謝申し上げます。

一方、中学卒業式は、準中高一貫校ということもあり、中学 1・2 年生の参加の中、少し簡素化した形での開催としました。とは言え、厳粛な雰囲気の中、呼名に促されて立ち上がる38期生の堂々とした晴れやかな姿にいつもとは違う一段と成長を感じました。式の結びには、スヌーピーの飼い主であるチャーリー=ブラウンの名台詞より、「人生という本には、後ろの方に答えが書いてあるわけじゃない」という言葉を引用して祝いの言葉とし、彼らを送り出しました。

石飛　一吉

卒業生全員による感動のサプライズ合唱

卒業生へ向けた飾り(ポスター)と手作りの菓子

参考図書
若松 英輔(2022)『詩集　美しいとき』亜紀書房より pp.58-60.
チャールズ・M・シュルツ, 谷川 俊太郎:訳(2007)『スヌーピーたちの人生案内』主婦の友社, 128ﾍﾟｰｼﾞ.